

園評価用紙 令和6年度

園名(さくらこども園)

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
★保育・教育活動の充実	表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と環境づくり	[環境の構成] 保育室内外の環境の構成・整理(美しさを意識した掲示版や環境整備)	4 月1回以上	3.75	4 半数以上の幼児が、自分たちの保育室をきれいに整えようとするようになった	3	・整った環境を意識し、遊びのイメージを広げるように掲示版を月1回以上、再構成した。しかし、幼児は、掲示版からイメージを広げたり遊びに生かしたりはするが、自分たちの保育室等をきれいに整えようとするまでには至らなかった。 ・教材に興味をもつてのびのびと表現を楽しめるように環境を整えたことで、幼児は見たり触れたりイメージを広げたりして楽しんだ。
			3 月1回程度		3 半数以上の幼児が、掲示版や教材から遊びのイメージを広げるようになった		
			2 2ヶ月に1回		2 半数以上の幼児が、掲示版や教材に興味を示して見たり触ったりするようになった		
			1 学期に1回程度		1 半数以上の幼児が、掲示版や教材などの環境に、あまり興味を示さない		
		[教材開発] 表現に関する教材開発や積極的な材料提示	4 月に1種以上	3.25	4 半数以上の幼児が、自分たちの遊びに表現を取り込み楽しむようになった	3.5	・教材開発や材料提示などは積極的に行った。身近なものを題材にした表現遊びは楽しみにする幼児が多くなった。動き方が分からなかったり、評価を気にしたりする子もわずかにいる。
			3 月に1種程度		3 半数以上の幼児が自分なりに工夫して表現を楽しむようになった		
			2 2ヶ月に1種以上		2 半数以上の幼児が、保育者と一緒に表現を楽しむようになった		
			1 学期に1種程度		1 保育者が提示すると、半数以上の幼児が参加するようになった		
		[保育・教育の環境整備] 表現遊びの充実のための用具等の購入・整備(設置者との連携)	4 材料・用具等の計画的な整備と活用	2.75	4 幼児が活用しやすく環境を構成したり工夫したりするようになった	2.75	・設置者との連携は、園長や主任が中心に行った。材料や用具等の計画的な購入については、園務分掌で教材を担当する職員との連携がタイムリーにできないこともあったので、次年度は改善し、計画的な整備を心掛けたい。 ・保育者は、教材の計画的な整備に意識をもち始めた。
			3 材料・用具等の購入に関する設置者との連携		3 幼児が表現を楽しめる材料や用具の整備状況を考えるようになった		
			2 表現に関する材料、用具等の検討		2 幼児が表現を楽しむ材料や用具を積極的に求めるようになった		
			1 園内にある材料・用具等の確認		1 幼児が必要な用具がないとあきらめ、園にある用具でできることを考える		
◆職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう教職員の協力体制づくり	[組織運営] 幼児の様子や分掌事務について教職員同士の話し合い	4 月4回以上	4	4 報告、連絡、相談を意識的に行って園務を遂行するようになった	3	・職員は目標を共有して園務を行った。また、初めて園務を担当する職員が、困った時には管理職に相談しながら取り組むなど、相談しやすい風土ができつつある。園務に関するマニュアルがあると、効率的に園務を遂行しやすいように思う。 ・経験の少ない教職員が、自分の思いを十分出していない状況もあるように思われるので、今後の課題である。
			3 月3回程度		3 保育や園務分掌の中で、他の職員と協力しようとするようになった		
			2 月2回程度		2 経験年数や年齢等を気にせず、思っていることを言い合うようになった		
			1 月1回程度		1 互いに、明るく気持ちよく挨拶するようになった		
		[研修] 開発した教材等に関する相互啓発・園内研修会の実施	4 月2回以上	2.75	4 半数以上の保育者が、もっと面白い教材を見つけようとするようになった	3.25	・打合せの時間をとることが難しく、検討や相互啓発への取組回数が不十分だった。 ・誰かが幼児の興味を引きだす遊びについて調べ始めると、一緒に考えようとしたりする姿や、新しい教材について保育者同士が教え合う姿がでてきた。この姿を大切に、保育内容の充実を目指して保育者の協力体制につなげていきたい。
			3 月1回程度		3 半数以上の保育者が教材研究をし、教え合う姿が見られるようになった		
			2 2ヶ月に1回程度		2 半数以上の保育者が、園内研修で提案されたことを試してみようようになった		
			1 学期に1回程度		1 遊びを考えて、幼児に提案するようになった		
◎地域に開かれた園づくり	子育ての支援室(未就園児の親子登園)や在園児と未就園児との交流活動の充実	[子育て支援] 子育て支援室の内容充実・積極的な運営方針の周知・徹底	4 情報紙発行・ミニイベント 月2回以上	3	4 子育て支援室への参加者・子育て相談者が、年間延べ 600人以上	2.5	・情報紙は毎月発行したが、参加者は思うように増えない。吹き出しやイラストなどを使うと保護者の満足感が得られそうなので、今後工夫したい。 ・子育て支援室の相談も少しずつ増えているが、園長は、毎回顔を合せなかった。参加状況を把握しながら活動内容を充実させ、参加者を増やしたい。
			3 情報紙発行・ミニイベント 月1回		3 500人以上		
			2 子育て情報紙の発行 月1回程度		2 400人以上		
			1 支援室情報の園だより、HPへの掲載		1 300人以上		
		[保護者・地域住民との連携] 教育活動と関連付けた行事の設定と地域との連絡会の実施	4 月1回以上	2.5	4 未就園児や地域との交流で積極的に関わろうとする幼児が 75%以上	3	・年長児が段ボールなどで作った遊園地ごっこや運動会等で、未就園児や地域の人々を招待し交流したことがよかったのか、在園児が積極的に交流するようになった。 ・普段の生活の中で自然な交流ができるようにしたことで、年長児の60%以上が未就園児に優しく関わろうとするようになった。
			3 2ヶ月に1回		3 60%以上		
			2 学期に1回		2 50%以上		
			1 必要なときのみ		1 50%未満		